教育長	教育部長	課長	指導主事	課長補佐	主査	係	保存区分
							永・10 5・1

令和４年度第１回大口町総合教育会議

令 和 ５ 年　３月２７日
午後　２時０２分　開　議
大口町役場３階　第５委員会室

１　開　　会

２　町長挨拶

３　教育長挨拶

４　協議事項

５　その他

６　閉　　会

構成員

町　　長	鈴木雅博	教育長	長屋孝成
教育長職務代理者	水谷惠子	教育委員	鈴村由布子
教育委員	丹羽力也		

欠席

舟橋由治

町長部局

総務部長	佐藤幹広	政策推進課長	岩田雄治
政策推進課主査	村田直樹		

教育委員会

生涯教育部長	社本　寛	学校教育課長	松井宏之
学校教育課課長補佐	三輪典幸		

（午後　２時０２分）

１．開会

○岩田政策推進課長　それでは定刻となりましたので、始める前にお手元の資料の確認をお願いします。次第と出席者名簿と資料がありますでしょうか。すみません、出席者名簿の中に私の名前が抜けておりますが、急遽出席できることになったもんですから、すみません。私は政策推進課長の岩田といいます。よろしくお願いします。

よろしいですか。

それでは、ただいまから令和４年度第１回大口町総合教育会議を開催いたします。

進行を務めさせていただきます政策推進課長の岩田といいます。よろしくお願いします。

本会議は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第１条の４第６項の規定によりまして、原則公開となっております。また、会議の内容につきましては、会議終了後、資料及び会議録とともに町ホームページにて公開しますのでよろしくお願いいたします。

なお、本日傍聴者はございません。

委員さんですけれども、出席者ですが、舟橋委員さんのほうからちょっと御家庭の事情で遅れるということの連絡をいただいておりますので、よろしくお願いします。

２．町長挨拶

○岩田政策推進課長　それでは、初めにこの会議の主催者であります鈴木町長より挨拶を申し上げます。

○鈴木町長　改めまして、皆さんこんにちは。大変お忙しいところお集まりをいただきまして、第１回大口町総合教育会議という、僕もよう分かっておらんですけど、会議を開催させていただくということでありますけれども、文書をちょっと読ませていただきましたら、総合教育会議とは、町長と教育委員とがこれからの教育行政の在り方や諸問題について協議・調整し、教育行政の方向性を共有し、連帯しながら執行に当たるための議論の場となるものと書いてあります。皆さんからつつがない御意見を頂戴しながら、今後の子どもたちの育成と、そして子どもたちの教育等々について、いろんな観点から御意見をいただければというふうに思っておる次第であります。

昨今、いろんな意味で卒業式に出させていただく中で、自分が思ったことを一言だけお話をさせていただくんですが、やっぱり大口町の子どもたちというのは本当におとなしい子たちが多いのかな、そして礼儀正しい子が多いのかなということを、改めてこの間の卒業式、小学校、中学校と出させていただきましたけど感じる場面が多うございました。やっぱりそういう意味で今までの町民の一人一人の皆さん方が教育というのか、子どもたちを見守る姿や、そしてま

た本人たちの自覚や親御さんたちのいろんな意味での自分の子どもを思う気持ちというのが、本当にほんわりとした温かいと言って言い方がどうかは分かりませんけど、何かそんなようなところを思うところがたくさんあるような気がしてなりません。そういう意味で、昔からの教育というのか、昔からの学校というイメージを我々も捨て切ることができなかった思いを、子どもたちもいまだに持ってくれているのかなあというようなことを思っております。ぜひそういう学校の教育の面だけではなく、人間形成にとって一番大切な時期でありますので、その時期を本当にみんなで思いやりながら育ててやることが我々の道じゃないのかなというふうに思っておりますので、今日は皆さん方からつつがない御意見を頂戴することを期待して、御挨拶に代えさせていただきます。よろしくお願いを申し上げます。

３．教育長挨拶

○岩田政策推進課長　ありがとうございました。

続きまして、教育委員会を代表して、長屋教育長から挨拶を頂戴したいと思います。お願いします。

○長屋教育長　改めまして、こんにちは。

久しぶりに総合教育会議を開催していただきまして、誠にありがとうございます。町長と直接こうして懇談できる機会でありまして、今までも有意義な会議になっておりましたし、今日もまた有意義な１時間ほどの時間を過ごしたいなと思っております。どうぞよろしくお願いします。

今、町長のほうから卒業式云々ということでお褒めの言葉みたいな感じで言っていただきましたけれども、確かに１月に成人の集いがありまして、二百数十名の二十歳になる子が来賓の話を聞くわけですけれども、そのときの姿勢が本当にここ数年よくなってきております。今年なんかはもう本当に、ああよう聞いておるなという思いで参加をしました。そして、確かに今年の小・中学校の卒業式についても、卒業式という節目にふさわしいような雰囲気が出ておったというふうに思っておりまして、まさに大口の子どもは大口で育つ、大口の子どもは大口で育てる、そんなことを実感しました。これも、本当に町民の多くのいろいろな機関、人が子どもたちの教育に関心を持ち、御支援をいただいているからだなあということを思いました。

その１つの例として、ライオンズクラブのほうからも奨学金制度というものをつくって子どもたちの教育に役立てようと。そして、今年度はまさにそれに当てはまるような子がちゃんと応募して、正式に採用されたという話も聞いております。それから、昨日記念式典があったわけですが、その記念式典で松江の市長様も来賓として御出席をいただいた。その市長さんのほうに中学生のほうから、前もってですけれどもメッセージが中学校に届いておりまして、３分

ほどのビデオメッセージでしたけれども、いい関係ができて、また行事を通して子どもたちが成長している、机の上での国語や算数の勉強だけじゃなくて、行事を通して子どもたちが本当に成長しているなあということを感じた次第です。

今日は、これからのアフターコロナといいますかウイズコロナといいますか、これの教育をどうしていくのかというような、そういうことで話合いができると思いますので大変期待をしております。よろしくお願いいたします。

４．協議事項

○岩田政策推進課長　ありがとうございました。

それでは、協議事項に入ります。

議長は、大口町総合教育会議運営規程第３条に会議の議事進行は町長が行うとなっておりますので、町長にお願いしたいと思います。よろしくお願いします。

○鈴木町長　それでは、議長を務めさせていただきます。

早速、議事に入らせていただきます。

議事としましては、まず１番がコロナ禍における子どもたちの教育の状況についてということであります。

事務局、説明をお願いできますか。

○松井学校教育課長　はい。それでは説明いたします。

１番の学校行事の状況でございます。

令和２年度から令和４年度を掲載しております。

まず遠足ですけれども、令和２年度はやはりコロナが始まったばっかりということで、場所の変更をしたりとかそういったことで行事を開催しております。

場所を変更したのは、西小学校の１年生と２年生が、１年生が本当は東山動物園へ行くはずでしたが、ふれあいの森に変更しています。２年生は、アクア・トトへ出かける予定が江南の中央公園に遠足の場所を変更しております。

２つ目の修学旅行ですけれども、令和２年度、延期と場所変更をしておりますのは中学校で、東京方面に出かける予定でしたけれども、この年から松江のほうに修学旅行を変更しております。令和３年度も同じで、中学校が東京から松江に変更をしております。

３つ目の自然教室ですが、こちらのほうも、令和２年度は場所の変更や延期、中止というようなことで、中止をしたのは中学校、それから１泊で行うものを日帰りに変えたりだとか、令和３年は中学校が延期と場所の変更をしておりますが、こちらは郡上へ出かける予定だったものが若狭に変更になったりしております。

それから、運動会・体育大会につきましては、令和２年度から規模や時間の縮小、それから保護者の参観をなしにして実施をしております。令和３年・４年度は、子どもたちを入替えするなど工夫をして実施をしております。

合唱コンクールにつきましては中学校のみですが、令和２年度はブロックで開催、令和３年・４年は学年別で開催をしております。

学習発表会につきましては、令和２年度は全ての学校で中止、それから令和３年度・４年度はこちらも内容を変更したり中止をしたりということで行っております。

今申し上げましたように、校外活動については延期や場所の変更をしながらも、年度が替わるにつれて計画どおりに実施できるようになってまいりました。また、運動会や学習発表会は、実施方法などを工夫し実施するよう努力をしております。

次に②の学校生活の状況でございます。

こちらにつきましては、授業に関しては、子ども同士の距離や飛沫が心配される音楽や理科の実験、調理実習などについて、苦労しながらも実施できるようになってまいりました。また、給食に関しましては、今までは前を向いて黙食という形を取っておりましたが、こちらもコロナ禍で時間を過ごす中、グループにも慣れ、話もできずにいましたけれども、今年度からは少しずつ会話が容認されてきているというような状況です。

マスクに関しましては、校内生活、登下校においては着用を推奨しながらも、場面、場面では外しながら過ごすことができるようになってきております。

中学校では、密を避けるため、徒歩で通学をしておりました生徒は、基本自転車通学を許可することによって密を避けるというような取組を行っております。

次に３番目、児童・生徒の状況でございます。

こちらの表ですけれども、令和３年度に実施をしました児童・生徒の問題行動、不登校等生徒指導上の諸問題に関する調査というものがありまして、全国と本町における30日以上欠席した児童・生徒の数と、いじめ認知件数の数を示したものでございます。

全国の統計のほうですけれども、30日以上欠席した児童・生徒、いわゆる不登校児童・生徒の要因について、令和元年から令和３年度までのものを記載しております。

小学校では、令和元年度と３年度を比較するとおよそ倍になっております。また、中学校では大きな増減は見られませんが、それぞれ特徴的なのは不登校の主たる理由、無気力、不安とする理由が、小学校・中学校ともに令和元年度と３年度を比較すると３倍に増えています。これは、コロナによる生活環境の変化により生活リズムが乱れやすい状況や、学校生活において様々な制限がある中で交友関係を築くことなど、登校する意欲が湧きにくい状況にあったものが背景として考えられております。

次のページには、令和元年度から令和３年度までの本町におけるいじめ認知件数を記載しております。小学校におきましては、この３年間を見ると増減を繰り返しているというような状況です。中学校に関しては、令和元年度と３年度を比べますと６分の１程度に減っているというような結果が出ております。

以上をもちまして、最初のコロナ禍における子どもたちの教育の現状について説明を終わります。

○鈴木町長　ありがとうございました。

今、事務局のほうから御説明をいただきましたが、これは広い分野でというよりも、どれか一つ一つ絞っていったほうがいいのかな。どうなんだろう。事務局どうですか。

○佐藤総務部長　今回、こういった形で御報告を受けたもんですから、あらかたこんな状況を認識いただくというような格好ではいかがでしょうか。

○鈴木町長　では、各委員におかれましては、自分はそこのところ気になるなというところから御意見をいただきながら、まとめてまいりたいというふうに思いますので、取りあえず、まず水谷委員、ここの中で自分が見られて気になるなというようなものがありましたら、ちょっと御報告いただければ。

○水谷教育長職務代理者　気になるなというか感想としまして、コロナ禍で皆さんいろいろ工夫されて、学校生活、先生方も含め皆さん生活している中で、まず修学旅行が松江になったということは、コロナ禍においてもよい方向に向かったのではないかなあと思っています。大人になってもそんなに松江市に行く機会があるものではないので、あるかどうか分からない中で、中学生がそういうところに行けて、しかも大口町との姉妹都市に行けたというのは、とてもよい機会になって幸せな経験ができたのではないかと思います。

逆に、コロナ禍になってちょっと残念なことは、北小学校で伝統的だった鼓笛の行事ができなくなったのがとても残念で寂しい気がしています。もしまた、ウイズコロナとかアフターコロナにぜひ復活してもらえたらいいなと思っています。

それで、中学校の合唱コンクールなんですが、今年度は江南市民文化会館で行われていまして、それは保護者の方も皆さん見に来てもらえるという広い会館でできたということもあったと思うんですが、密を防いで。生徒たちがコロナ禍のあまり声出して練習できないとか欠席が多い中でも、ハーモニーを響かせようと皆さん協力してすばらしい合唱ができていたというのを見てきました。そんなに大きな会館のステージに立てる機会もなかなかないと思いますので、これも非常に生徒たちにとってよい経験ができたのではないかと思います。

学びを止めないということを常々から学校生活において言われていますので、そういう工夫がそれぞれできているのではないかなという感想を持ちます。以上です。

○鈴木町長　ありがとうございます。

では、鈴村委員いかがでしょうか。

○鈴村教育委員　そうですね、まず今頂いた資料のほうで一番最後のいじめ認知件数について、中学校が大幅に減っているのというは本当に減っているのか。やっぱり今、スマホなどの問題、ＳＮＳとかの関係で目に見えないいじめは本当は増えているんではないかなというのがすごく気にかかるところであります。

あと、コロナになってから教育委員として学校に出向く機会がとても減っているので、正直ここで議論ができるのかなという思いはすごくあるんですけれども、私は教育委員ではない立場ではちょっと学校にたくさん行かせていただいているのですが、そこでやっぱり先生方の工夫はすばらしいなといつも感じながら、子どもたちの笑顔を絶やさない教育をしていただいてとてもよかったなと感じています。

コロナに入ってすぐに、ＧＩＧＡスクール構想で、大口町はもう児童・生徒一人一人にタブレットをすぐ用意していただけて、本当に学びを止めることなくできたのがよかったなと。それが今ちょっとタブレットの活用が、中学生はもう当たり前のように授業中、放課なんかにもタブレットを活用している姿を見かけるのですが、小学生が今どのぐらい利用されているのかなというのが気にかかるところです。

あと、不登校に関してですけれども、不登校だけでなくて保健室とか別室登校している児童・生徒の数なんかもちょっと気になるなと思いました。

○鈴木町長　ありがとうございます。

丹羽委員、いかがですか。

○丹羽教育委員　この資料の初めのほうからなんですけれども、取りあえず今後は多分アフターコロナということでいろいろな行事等が復活してくるのかなあというところで、先ほど中学校の修学旅行のこともちょっと言われていましたけれども、松江ですね。昨日、私も記念式典に参加をさせていただきまして、松江市長のお話、中学生をアンバサダーに認定していただいてということで植樹等もさせていただいていて、私の子どもも正直経験させていただきました。すごくよかったということを聞いておりますので、やっぱり今後も、今までは東京だったのかもしれないんですけど、東京って行く機会というのは今後多くなってくるのかなと思うので、やっぱりせっかく姉妹都市ということもあると思いますので、このアンバサダーをどんどん増やしていっていただきながら、５年後、10年後、成人になってから、あのとき植えた木、どうなってるんだろうなといって、また自分の家族ができたときに連れて行っていただくとかということをしていだたくと、この大口町と松江とのかけ橋にもまたなってくるのかなというふうに私は思うので、この松江ということに関しては、当初５年計画か何かでしたよね。

○社本生涯教育部長　３年。

○丹羽教育委員　３年ですか。その辺ももう少しまた見直してというところで、見直すというのは、このまま続けていく方向とかということも考えていただけたらなというふうに私は思います。

次なんですけれども、学校生活の状況においてちょっとこの中で一つ私気になったのは、登下校のところですね。最後に中学校の密を避けるために歩行通学生徒の自転車通学を許可ということがあるんですけれども、先ほど鈴木町長がちょっとおっしゃられていたんですけれども、おとなしい子が多いということだったんですけれども、ちょっと私がいろんな方面からお話をいただくのは、この通学に関して、子どもらしいというのかちょっと何とも言いにくいかもしれないんですけど、道幅広がってちょっと通学をしていて、やっぱり車とかの通行の邪魔になってしまうというような声をちらほら私のほうにちょっと聞くことがありまして、やっぱり先ほど大口の子は大口で育てるじゃないですけれども、やっぱり自転車のマナーというか交通マナーというのもやっぱりしっかりと教えていく必要性というものがあるんじゃないのかな。それは、本当は自転車が優先とかそういうこともあるかもしれないですけれども、集団で下校する際に、やっぱり青信号のときに自転車がずうっと走り続けてしまうと、自動車でいうと右折車両が右折できない。当然歩行者、自転車優先なのかもしれないんですけれども、子どもたちもそういったことに気がつくようなことができれば、またちょっと地域と子どもたちの関係性というのも変わってくるでしょうし、またそういったルールで道幅いっぱい、田舎のほうだとまだいいのかもしれないんですけれども、やっぱり余野のほうとかちょっと住宅街のところで２列、３列に広がってしまうと交通の妨げになってしまうので、そういったところをいま一度、交通ルールを教えるのか自転車通学をまた見直すのかというところを少し、議題じゃないですけどそういった話合いの場をちょっと設けてもいいのかなあというふうに私は思いました。

いじめとか登校拒否ですね、そういったことに関しては、先ほど鈴村委員さんも言われました表面化されていないところということもある。確かにそういうふうにあるのかもしれないので、なかなかＳＮＳ等のいじめというところは分かりにくいこともあるんですが、そういったところをどうしたら表面化させて、子どもたちが健全に生活できる状況をつくっていけるのかということも話していくというか、どうしたら気にかけられるのかというところを考えていくことも必要なのかなというふうに思っております。

最後に、ちょっとこれは少し、何て言うんですかね、今回の議題とはまた違うのかもしれないんですけど、こういったいじめの数とか不登校の数とかと絡んでくるのか絡んでこないのか分からないんですけど、私の子どもが中学に入る前なんですけれども、教科センター方式をちょっと取り入れていた時期があったと思うんです。そういった中で教室の移動等とかあってと

いうところで、やっぱり勉強に集中できないとかという話を僕も聞いたことはあったんですけど、今、多分その教科センター方式って取られていないと思うんですけれども、通常に戻した中で、どんなふうに変化をされてきたのかなというのが分かれば、ちょっと教えていただきたいなというふうに思っているんですけれども。以上です。

○鈴木町長　ありがとうございました。

今の御意見をお伺いしていますと、いわゆるいじめの問題、それから修学旅行の問題、学校の問題、教科センター方式、自転車、あとは……。これぐらいかな。

○水谷教育長職務代理者　松江の修学旅行。

○鈴木町長　松江の修学旅行ね。というような５つぐらいの項目に連なってくるかなあと思うんですが、まず修学旅行に関しては、松江の皆さん方にいろいろとお骨折りをいただいて、ウイズコロナじゃなくてコロナ禍にも行ける状態をつくっていただいたことに対しては物すごく感謝をしなければならないのと、やはりそういう意味で今後の在り方として、教育委員の皆さん方からのお話を聞く中では、今後も松江でというようなお話をいただいておりますので、この件に関しましては、教育長を通じて中学校のほうにはお話をしていこうというふうに思いますが、教育長いかがでしょうか。

○長屋教育長　結構です。

○鈴木町長　よろしいですか。

あと、生涯教育部長としてはいかがでしょうか。

○社本生涯教育部長　今年の資料、これは若干表記が違うんですけど、今年の令和４年度までは東京で決まっていたんですけれど、いずれも行き先変更ということで松江にしてきました。令和５年も、もう既に入札が終わっていて東京だったんですけれど、これも行き先は変更で松江にいたします。令和６年度分の入札がこの間終わりまして、これはもう最初から松江で決めていますので、今後２年間は松江で進めていくということはもう確定しています。

この至った経緯というのは、コロナはこれから先は丹羽委員さん言われたようにウイズコロナとかその中で進めていくということなんで、東京へ戻すというのは一つの案ではあるんだけれど、行った生徒の皆さんの声に関しては、東京と比較はできないんだけれど、少なくとも松江、それから出雲大社、行ってよかったという声がやはり多いというのは、学校としてはひとつ東京に戻すよりはというお考えを持っているというふうには聞いていますので、今、委員の皆様方から出た御意見だとか、それから先ほど町長の挨拶でしたかね、教育長だったかな、生徒さんが松江の市長さんにメールを入れて、こういう卒業生ではなくて僕たちの次の世代にメッセージが欲しいということを送った生徒がいたということで、市長さんすごく喜ばれて、ぜひそのメッセージを送りたいということで３分ほどのメッセージをつくられたんですけれど、

そういった子どもたちの声が増えて来ているというは非常に、大人の価値観だけではなくて子どもの価値観もあるなあというふうに感じていますので、今皆様方の意見も合わせて、教育長がお話しされたように伝えていきたいなというふうに思っています。

○鈴木町長　ということで、教育委員の皆さん方には御納得いただけますでしょうか。大体この２年間はということで。また２年後に対してはどうなるかということにはなりますが、俺、小学校は京都・奈良だったんで、丹羽委員もそうだろう。

○丹羽教育委員　そうです。

○長屋教育長　伊勢じゃないですか。

○鈴木町長　京都・奈良だよ、俺ら。

○社本生涯教育部長　大口は最初の頃から京都・奈良。

○鈴木町長　伊勢は違う。何か途中で、どこかで１回伊勢神宮へ行くよね。僕らのときそうやったもんね。

○長屋教育長　修学旅行が……。

○鈴木町長　僕のときは修学旅行、京都・奈良で行ったんで。鈴村委員って出身どこ。

○鈴村教育委員　私、江南です。伊勢志摩です。

○社本生涯教育部長　だから、近隣は伊勢志摩。

○水谷教育長職務代理者　大口です。

○鈴木町長　大口だよね、京都・奈良じゃなかった。

○水谷教育長職務代理者　そうです。

○鈴木町長　そうだよね。たしかそうだ。

○社本生涯教育部長　そうやって聞いています。ずっと近隣は伊勢志摩だけど、大口は何か京都・奈良。

○鈴木町長　ということだよね。ということで、ある程度決まったところに行くと、やっぱりこういう年取ってからも皆さんとこうお話ができるということでありますので、できるだけ場所の変更等はないようにした形で、今後もやっぱり大口町で育って大口町で生まれて、大口で育って、また自分がここで家庭を持ってという中で、親も京都・奈良、子どもも京都・奈良、孫も京都・奈良というのが一番、そういう意味では家庭の中での話もしやすいというようなことになりますので、中学校に関しましても、できるだけ変更はなしにして進めてまいりたいというふうに思っておりますので、一遍修学旅行に関しては次からも松江のほうで、できるだけ我々としては考案をしながらやっていくということであります。本当に松江の市長も感激してみえましたので、そういうことも踏まえると、今後もやっぱり松江市として大口町の子どもたちを受け入れてくれるという環境は全然変わっておりませんので、ぜひそのような方向性で進

めてもらうようにお話をしてまいります。よろしくお願いいたします。

あと、続きまして、教科センター方式から普通のやつに、普通のというのか一般のに変わったということで、今、丹羽委員から話がありましたけど、どうなの。

○社本生涯教育部長　教科センター方式というのは、教室を移動するだけが教科センター方式では実はないんですけれど、やはりその専用の教科の部屋があってこそ移動する価値があると。設備的に専用教室が用意できない中で移動するというのは、やはりその移動しがいがないというところで、生徒の皆さんは移動はしているんだけれど、移動する価値的にはちょっと低いかなというところがありましたので、コロナというこの機会に、過去を否定するんではなくて前向きに一旦移動はやめて、ただその教科ラウンジを使ったりしていくのは進めていこうということでやっています。

○鈴木町長　ありがとうございます。

できる限り落ち着いた環境の中で、そして地域の皆さんや先生方やいろんな人たちが優しい目で見てあげることによって、いい子どもたちができてくれるんではないのかなあと思っておりますので、いわゆる今の教科センター方式を全部やめてしまうとかというわけではないんでしょうけれども、おとなしい子どもたちにはおとなしい勉強をさせてやる環境をつくるということであると、ホームルームがあって、ちゃんと皆さんが一つの部屋で次の準備ができるような、そんなことを続けていく必要性があるんではないのかなあというふうに思っておりますので、また今、丹羽委員からいただいた御意見も参考にしながら、今の形をそのまま続けていくというような方向性もいいのかなと。というのも、いろんな話を聞いている中で、学校教育いわゆる小学校、中学校の中で、何となく皆さん思ってみえると思うんですが、いい方向のように進んでいっているような気がしてならない。これは僕だけかもしれませんが、何となくみんな本当にいいんじゃないかな。１つ言うなら、先ほど出ました自転車のマナーの悪さはちょっと悪いよなというところは、僕も正直言って感じているところでもありますんで、そこら辺に関しては、また各委員の方々からも御意見をいただきたいなあというふうに思っておるところでありますんで、まずは、中学校の学校の運営に関しましては今のような形を取らせていただき、今後は今のいじめの問題、あと次に自転車の問題、こういうところを重点にお話をさせて、皆さんから御意見いただきたいと思いますんで、よろしくお願いをいたします。

では、今話がありましたように、いじめの問題、不登校の問題等について、この２つを１つにまとめてお話をいただければいいのかなと思います。よろしくお願いします。

丹羽君、どうですか。

○丹羽教育委員　いじめに関して、先ほど言ったようにちょっと表面化されていないところをどういうふうにサポートしていくのかということと、不登校に関してでも、何て言ったらいいん

ですかね、できるできないとかという問題もあるのかもしれないんですが、例えば授業に参加できない子が、また別の時間というわけじゃないですけど別の機会を設けるようなことができたらというのは思うんですが、ただそうなってくると、この間ちょっと別の会議のときにお聞きした、先生たちの時間とかという問題にもなってくるのかもしれないので、少し現実的ではないのかもしれませんが、そういったことを一つずつ、何が正しいということが分からない中かもしれないんですけど、一つ実践しながら答えを出していくというところで解決していくということをやっていく必要性はあるのかなというふうに感じています。

○鈴木町長　ありがとうございます。

水谷さん、お願いします。

○水谷教育長職務代理者　まずいじめの、さっきの鈴村委員が言われたいじめ認知件数について、中学校の元年度から３年度にかけてあまりにもちょっと減り過ぎなので、これは全てが認知できているのであろうかと本当に不安になってしまうような数字です。細かいいじめでも全部取り上げてくださいというふうなので、数字が多いからいけないとかじゃなくて、ちゃんと見ているから数字が多いということにも捉えられると思うので、ちょっとこの数字は不安だなという気がいたしました。

それから不登校についてなんですが、今は多様な学びというのが叫ばれている中で、不登校だから悪いとかそういう考えではないような気がしています。大口町の中に今不登校の子が行ける白山ふれあいルームがあるんですけど、またそういう形とは別な、何か施設というか、ちょっと難しいんですけど生涯学習のほうで不登校の子が行ける、行きやすい場がつくれたらいいなと、何となくぼんやりした感じなんですが、そういうこともちょっと今後考えていってもいいのかなというふうに思ったりしています。

テレビとかでもＮＨＫとかで、神奈川のほうに最初は市町の生涯学習が立ち上げたんですけど、それからは違う方に替わって運営していっているとかそういう施設もありますので、そういう施設とかを参考にとか、もうちょっとアンテナを高く皆さん持っていただいて、何か工夫ができるといいかなというふうに思ったりしています。

それから、自転車のこともよろしいですか。

○鈴木町長　またちょっと後にしましょう。取りあえず今はこの件について。

鈴村さん、いかがですか。

○鈴村教育委員　今、水谷委員が言われたことと同じようなことなんですけど、ハイブリッド方式といいますか、学校で授業を受けるだけじゃなくて、せっかくオンラインでもコロナに入ったすぐにはいろいろ工夫されてやれるようになったので、中央公民館とかも今はフリーＷｉ－Ｆｉを引いていただいて、それこそ中央公民館のこういうテーブルのところでタブレットを見

ながら授業を受けるのもありなのかなみたいな、いろんなことはできる環境が整いつつあるので、その辺をもう少し生かしていけるといいんではないかなと思います。勉強だけじゃなくて、やっぱり特に中学生は、何になりたいかという将来のなりたい自分になるために、なりたい自分、そのなりたいものの力をつけていける学習、今すごく学力はよくなってきたといわれているので、やっぱり学力だけではないので、そういったこともっと高められるように。いろいろ通いづらい子が通いやすい学校になってくれるといいなと。なので、今そういった場所は中学校では設けているんですけれども、それが取りあえずちょっと形を、言い方は悪いんですけど形だけつくってオーケーというような面がちょっとあるので、そこに対応できる先生とかボランティアとか、そして大口町に地域支援から地域協働に変わった地域協働本部というものがあるので、もっと地域の力を借りたりとかしながら、大口の子は大口で育てるなので、みんなで育てていける環境を整えていくのが理想です。

○鈴木町長　ありがとうございます。

○松井学校教育課長　今言われたように、生涯学習活動でそういったものがあるというのがテレビとかで見たことはあるんですけれども、今のこの大口町の生涯学習課の中で青少年問題だとかそういったものもありますけれども、なかなか機能をしていないところになっています。活動もそれほど活発に行われているわけでもないと思いますので、そういったところに少し力が入れば、またいろんなことができるような気もしますけれども、まずその団体さんをいろいろつくっていくということも一つ必要なのかなというふうには思っていますけれども。

○水谷教育長職務代理者　何て言うのかな、生きる力を育むというか、そういう教育というか。生きる力を育てていくことが大切かなと思います、今。

○鈴木町長　今のそれはキーワードの一つだと思うんで、今後あなたと三輪君が進めていく中で、その意味を十分に捉えて、まだこれから、今までやってきた社本部長たちと感覚が違ってくるということもあるんで、その生きる力ということをキーワードにして、今後自分たちの役職の中でちょっと見方を変えた方向性をこれから探っていくという形しかできない。今、答え出せと言われても我々でもちょっと難しいところがあるんで、今後やっぱり学校教育の中でその生きる、いわゆるいじめによって自殺とかそんなことが起こる可能性もないとは言えないんだけれども、それには生きる力がないというところもあるんで、生きる目的を見いだすための教育というのが何なのかということを、やっぱり少しでもその力を出してあげられるそういうものをつくっていく。ハード、ソフト両面に関してつくっていくということも必要であろうと思うけれども、今すぐ答えは出てこない。だからその件に関しては、事務局がそういうことをこれから念頭に置いて、今後の事業をどう進めていくか一つの糧にしてくれればいいんじゃないのかなというふうに思いますが、よろしいですかね。今の時点ではその形は出てきていませんの

で、今後の役所として教育に関する人間にとっては、その方向性でいこうという形でやってもらえばいいんじゃないのかなというふうで締めくくりますので、よろしくお願いをいたします。

じゃあ続きまして、自転車の登下校についてということでありますが、この件に関してどこか事務局から何か話しすることある。

○松井学校教育課長　中学校ですけれども自転車の講習といいますかね、警察の方にお願いをして自転車のマナーの講習会を年に１回、去年は２回やったと思いますけれども行っています。それとあと、昨年度は町長から江南警察のほうにお願いをしていただいて、たまたま中学校の前に交番ができたもんですから、そちらのほうの子どもたちの指導も強化をしてほしいということでお願いをしておりまして、いろいろお骨折りをいただいて、そこの交番の前に立ったりとかそういったことをしていただいて、子どもたちの交通マナーに関してはちょっと力を入れております。

ただ、あそこを離れてしまうと子どもたちも大人の目がないというところもあって、今委員が言われましたように道幅いっぱいに広がってしゃべりながら帰っていったりだとか、そういったところも僕らも現場へ出ているときに時々見かけますけれども、危ないよと近くにいれば注意はしますけれども、そんなようなことが現状です。ただ、学校のほうも一応そういった講習会とかを開いて、子どもたちの交通事故には気をつけているというのが現状です。

○鈴木町長　何となく聞いておると、外におると何か優しいけど、自転車をまたぐと人が変わるというようなそんなようなイメージがあるのかなと思ってさっきちょっと聞いていたんだけれども、だからといって、外に帰っていくときに我々も、俺もたまに見るときあるけど、困ったなあというところがあるんだけれども、それぞれ皆さん、委員の皆さんや、それこそ職員の皆もどういう方法があるかということは、ここはやっぱりみんなで話し合うことのほうが大切かもしれないんで、丹羽委員、どう思う。

○丹羽教育委員　僕が中学時代のときというのは当然、コロナ前もそうだと思うんですけど、自転車通学の人間と自転車通学じゃない人間がいたわけなんです。僕はどちらかというと自転車通学じゃない範囲に住んでいました。やっぱり自転車通学羨ましいなという、やっぱり楽なんですよね、自転車で行き来できると楽なんです。その中でちょっと違反してというか自転車で通学したこともあったんですけれども、やっぱり便利なんですね。当然、今の子たちも全員が自転車通学できるということは便利に感じていると思うんです。

初めはやっぱり密を避けるためということだったかもしれないんですけれども、やっぱりいざ歩いて行くのと自転車で行くのと考えれば、当然自転車のほうが楽なんですけれども、やっぱりマナーが守れないというところの中で、何が罰則になってくるかといったら、その便利さを取り上げるということが一つの方法。例えば車の免許なんかでもそうだと思うんですけれど

も、何かあれば免許停止だったりとか免許取上げだったりとかというようなことがあって、その便利さを奪われたくない。本当はちょっとそれって違うのかもしれない。マナーを守る、交通ルールを守るという観点からすると違うのかもしれないんですけれども、一つのきっかけ、その便利さというものを停止させるということを何か取り入れていくと、やっぱりそういった便利を確保したい、じゃあどうしたらいいのかと考えたときに、じゃあやっぱりマナーを守っていかなきゃいけないんじゃないかというような子どもたちの自発的な考え方を促していくと、強制ではなくて自己、自分の利益を守るためかもしれないけど自発的な行動につながっていくのかなというふうにちょっと思います。

○鈴木町長　免許制にしろってことか。

○丹羽教育委員　うーん。そんなような。

○鈴木町長　昔、俺は学生手帳よう取り上げられたけど、あれと一緒か。

○丹羽教育委員　そうですね。何かそんなような形でやっぱり個々を識別しながら便利さを取り上げていくというようなことをしていくというような感じのほうがいいのかなとは思っています。そうすると、さっき言った自発的に、じゃあ守ろう、どうしたら守れるんだ、もしかしたらどうしたらその目をかいくぐれるのかというふうになっちゃうのかもしれないですけど。

○鈴村教育委員　でもやっぱり罰則、何でも取り上げるのは私はちょっと好きじゃないほうで、何にしても、スマホとかのマナーでももちろん交通ルールでも、全てが学校の問題というよりは、もう親の問題、家庭で教える問題であるし、もちろん、だから家庭だよ、学校だよじゃなくて、それこそ町長さんはじめ誰でもみんな大口の子なんだから、悪いことをしていたら注意するというのが、それも理想論にはなってしまうんですけれども。

○鈴木町長　じゃあ、ちょっとそういう方向性で話を考えてみるか、みんなで。

○水谷教育長職務代理者　その言い方ですよねというか。

○鈴木町長　警察がいつも捕まえるみたいに、どうもあなた違反していますよね。はい、免許出してください。いやいやそれそうじゃないでしょうと言っても、いやこれはこういうふうなんで、はいよろしく、はい切符切りますというのと一緒のような形になっちゃうかなあと思うんだけれども。

一度、学校教育課長のほうで、免許証を発行するんだったらちゃんと講習受けてから免許証発行するとか、どうするのか知らんけれども、いつでもみんなが取り上げられるような、注意できるような形をちょっと一度考えてやらないと、実は自転車通学にしたのは元は経緯があって、夏にクラブ活動でみんなが学校に出てくる。あのときに、私と職員と２人で見ていて、歩いておるほうは朝は出てくるときはいいんだけど、帰りの15時、16時に、あの暑い照り返しの中を帰っていく姿を見て、みんなへとへとになっておるのに、自転車通学の生徒はすっと行っ

てしまう。でも２キロと2.1キロ、どこが違うのという話からそういう話になったわけですよ、実際はね。今でも見ていると、中学校でも通っている子は歩いて通ってくる子も近くの子はいるわけだよね、厳密には。いるんだよ。だからそういう意味からいくと、かわいそうだから、夏休みだけクラブへ行くときだけは自転車通学許してやってくれよと言って、社本君と今の教育長から校長に話してもらって、それもあの当時は熱中症というのはすごく出ていたんで、そこのところを解決するためにということでした。

そうこうしていたら今度はコロナになりました。コロナになって子どもたちが幾ら言っても一列で並ぶわけじゃなくてくっついてべちゃべちゃやって、うつったらどうするのというところから、だったら自転車だったら一列に並んで、そのときに僕が社本君に言ったら、２列に並んだとしてもハンドルがあって、ハンドルとハンドルだからこう抱き合ったような形でこう、わあーってじゃれながら帰っていく姿がなくなるから、そこはそれでいいんじゃねえかという話から、その自転車通学というのがだんだん許可されるようになってきたというのを思う。

その中にも経緯がいろいろとあって、最終的には今の状態のようになってしまったと。便利さとそれからあと実用性と、もう一つは何て言うのかな、その健康管理やいろんなことから考えていくと、自転車って決して悪いもんじゃない。ただそこの中にマナーがあればいいということになるんで、そこは一回松井君のほうで何が一番いいのかというか、講習やったり何してみても絶対直らない。だからもうさっき丹羽君が言ったみたいに、もう免許証で免停をつくるかつくらんか、でもこれしかないかもしれない。それとも今の話で、もう一度学校で自転車免許証を取り上げた場合は、免停にはしない代わりに、極端なことを言うなら何だ、講習会を受けろと。受けるまでは今の話で、乗ることは駄目だよというふうにするかというような形の利便性を取り上げるというのも一つの手かもしれないなと。

何かいい方法を探さないと、事故、今のところ大きな事故は報告はされていないんだけど、いわゆる事故はすごくあるし、また自転車に乗っている人と歩行者とのことも出てくるんで、やっぱりそうなるとすごい今何億ということもあるだろう、補償の話の中で。そういうこともあるんで、そこはやっぱりきっちりしていく必要があると思うから、そこのところはやっぱりやっておかないと、何か起こってからでは話にならんもんで、やっぱりきちっと一度計画を練って立てて、子どもたち中学校。それでいいんですかね、そういうふうで。

○長屋教育長　まあそれもありです。

○鈴木町長　ありですよね。ありだって教育長言っておるんで、考えろ。

○水谷教育長職務代理者　一ついいですか。

○鈴木町長　どうぞ。

○水谷教育長職務代理者　そういうのも含めて、生徒会でちょっと話し合って、自分たちが決め

たことはほかから、生涯学習課から言われた、上から言われたじゃなくて、自分たちでルールをこうしましょうというふうに決めるように何か仕向けていくというか。いろんなさっきの取り上げる方法もあるよとか、何かそういうワードというか、そういう方法もいろいろちょっと案として出してあげて、生徒会で話し合ってもらうといいかなと思ったりもしますけど。

○鈴木町長　どうだい、それ、社本君。

○社本生涯教育部長　先ほど、自転車通学のいきさつの中で町長から話があったんですけど、そのときに、暫定的に自転車通学を認めているという場面も結構あったもんですから、暫定ではなくて、やはりそれが暫定が継続的になっているんであれば、きちっと根本から話をして、必要なものは必要だと。そういう形で話合いをしてくださいと。それであれば町は自転車置場を造りますという話をしています。講習の話も町長からも提案があったし、うちのほうからも提案をしましたし、そういったことの自転車のこととか、それから制服を含めたいろんな学校のルール、それも一度この機会に生徒会で話を大人と一緒にしたらどうですかという話はしたんですけれど、まだちょっと形になっていないんで、引継ぎ書にしっかり書いておきます。

○鈴木町長　引継ぎには書いておかんでも、やろうと言って……。

○社本生涯教育部長　いや、もう働きかけは既にしているんです、自分は。学校に既に働きかけはしたんだけど、形になってきたという話は聞いていませんので。

○鈴木町長　よし。だったらもうきちっとやってもらいましょうという話は。

○社本生涯教育部長　自分たちのことをやっぱり大人が制約をしていくということも、まあそれは一つの方法ではあるんだけど、でき得れば、それこそさっきの生きる力というのはそういうことも含めて、親の大人の目が行き届かなくても守れる。ひょっとすると、自分はそのいじめのことに関しても、学校のいじめのこと、やんや大人は言うんだけれど、今の世の中の寛容性のなさって本当に大丈夫ですかって。子どもたちのいじめより大人のいじめ、大人はいじめという言葉は使わないんだけど、寛容性のなさ、みんなで袋だたきにするみたいなこともやっぱりあると思うんですね。だから、できるだけ自分たちで考えたり、それからちょっと寛容であるべきだということなんだよね。みんなで考えてほしいなということを引継ぎしていきますので、よろしくお願いします。

○鈴木町長　ありがとうございます。

　ちょっと時間のほうも押してまいりましたので、本当は次にウイズコロナ時代の教育活動をいかに継続するかという話が出ていましたけどあるんですが、この件、今の話で大体済んでいるんじゃないの。

○社本生涯教育部長　そうですね、比較的先ほど丹羽委員さんとか皆さん、ウイズコロナというというか、これからどうしていくかという、出ていますので。

○鈴木町長　という話が結構出ていて、あと資料として何かそっちのほうから、事務局のほうから言わなきゃいかんというところある。

○松井学校教育課長　特にはありません。

○長屋教育長　すみません、ちょっといいですか。

○鈴木町長　どうぞ。

○長屋教育長　まず、今日出た中でいじめということの認知については、水谷委員が言われたように、いじめの認知数が多くなれば多くなるほど、その学校はいじめに対策をしていない悪い学校だということは毛頭思っていません。数が増えたって別にそれは正直に言ってくれということでずっと来ております。それから、そういう方向で大口町のいじめ防止対策推進法に基づく基本方針は記述をされていると思っています。

この３年間、コロナと共に過ごした３年間の中で、２つ気がかりがあるんです。まず１つは、今の学び方というのは主体的で対話的な深い学びということを言っています。対話的な深い学び、これは何かいうと、こつこつとやる勉強もだけれども、みんなと意見を闘わせるような場面があって、対話をすることによって自分の世界を広めていくという学びでありまして、これを重視していきたい。ところが、マスクはしておれとか、それから大きな声でしゃべるなとかいうことで言ってきて、この活動がなかなか円滑にできていないことが一つ、これから変更していく必要があるなあというふうに思っています。歌を歌うときはマスクなしで大きな声で歌ったりするという、こういう場面をやっぱり増やしていかないかんなということです。

それからもう一つは、あんまり目に見えないことですけれども、そもそも３年前、それから２年前にわたってプールが中止をされました。プール中止ということは、１年で授業の中で例えば10時間ぐらい、それからその他で夏休み中に来て遊泳とかそういうようなことで５時間、６時間やりますので、今の小学校３年生の子については、その分が全く多分できていない状態だったということです。それに対して、３年前だったかな、何とかそれはいかんからそういう子はプールで泳がせてやる機会をつくろうということで、ウィル大口の力を借りてやったことがあったんだけれども、多分、かなり焼け石に水という状態だったわけです。そういうことで、その分については今後何とか小学校と話をしてその欠けておった分について何か対応できんのかということで働きかけていきたいなというふうに思っています。以上です。

○鈴木町長　ありがとうございました。

ほかに何か御意見あれば、事務局からのほうからでもあれば。

また、委員の皆さん方からも何かこういうことについてはというところが御意見ありましたら。今日いただきましたいろんな案に対しましては、事務局のほうでしっかり練ってくれて、次の教育会議までには答えを出してほしいというか、もし駄目であれば皆さん方に送付すると

か、また相談するならしてやっていこうというようなことを考えていますが、ここだけはという何か。

○鈴村教育委員　全然それてしまうんですけど、多文化共生についてここのところずっと私はかかわっているので、やっぱり大口町、外国の方が増えていますよね。それはもちろん大人の人数も増えていますけれども家族の呼び寄せとかで子どもの数も増えているので、先生方もまだまだ正式に取り組めていないけれどもそれに対応していかなきゃいけないというところが今大変そうだなと感じています。

○鈴木町長　丹羽委員は。

○丹羽教育委員　大丈夫です。

○鈴木町長　水谷委員は。

○水谷教育長職務代理者　もう一つ、コロナ禍で、コロナ禍によりよかったというのか、西小学校で校歌を手話をつけてやっていたんですね。

○鈴木町長　手話。

○水谷教育長職務代理者　手話。昨年、きっと町長も西小の卒業式に御一緒だったかなと思って。

声が出せない分、手話で歌をやりましょうというふうで、それはコロナ禍ではなかったらそういう方向とか工夫には向かなかったんじゃないかなと思って、それもいろんなことを学ぶ意味でよかったかなと思いました。それも伝統になっていくといいなと、そのとき校長先生がおっしゃられていたので、それはとてもよいことだなと思いました。

○鈴木町長　了解しました。

耳が聞こえない方とかという人たちは今後いろんな意味で出てくると思いますので、松井君のほうで、手話もしくは何かで表現できるものがあるかどうかというのも一度検討してください。

さっき言った多文化、何を隠そううちも旦那が外国人なんで、言っておることいまだに分からんなというのが現実で、うち本当にそうなんですって。今後やっぱりもっとますます海外に出る確率が高くなって、コロナが終わっていきなり高くなって、また向こうから来る人たちもたくさん見えるということで、英語だけできればいいという問題でもなく、今日たまたま議会のときにお聞きしたのは、昨日から五条川のところを歩いていると、外国人の人がすっごい多いのね。ところがこの大口町ってほとんど外国語で書いてある看板ってないんだよね。よくよく見てもらうと分かるんだけど、外国語で書いてある看板ってほとんどないんですよ。だから、それも今後考えていかなきゃ駄目なのかなあなんていう話を議会でちょっと話をさせていただいたの。だで、鈴村さんが言ってくれたことは正直言って正しいことだと思うんで、今後やっぱりそういうところも少し学校の中でも考えていかなきゃ。逆に例えば韓国語でトイレって書

いてあったらどういう字書くか知らんけれども、トイレってこういうことといって、今度この子たちが海外へ行ったときに、ああこれトイレっていう意味だねって自分で分かってくれればいいのかな。逆に、韓国の人がこっちに来たときにトイレって分かって、日本語でトイレって書いてあればトイレになるしというようなことで、お互いに持ちつ持たれつの部分もあったりとか、それから言葉の問題や、それから習慣の違いとかいろんなものあるんで、そういうところもこれから目をつけて、目をつけるって言ったら言い方悪いな、注目して少しでも教育の中で生かせるような場面があれば、そこは一度検討をしてほしいというのが教育委員会の皆さんからの問題だよということです。よろしいですかね。

○水谷教育長職務代理者　すみません、いいですか。

○鈴木町長　どうぞ。

○水谷教育長職務代理者　既に小学校では、福祉教室をやっているので、もうそういう福祉のそういう教室はあるので、そういうこともやってねというか、松井さんに今言われたこととはちょっと違って、もう既にそういうことは経験させてもらっているので、小学生は。

○鈴木町長　学校ではね。

　ただ、どこか出たときの、さっき僕が言いたかったのは、どこか出たときにそういうことができる子が何人かいるか、もしくはそれができればいいのかな。いわゆるさっき言った言葉で、俺が一番分からんのは韓国語で書いてあるのは全く、トイレがどこなのかっていうのはみんな分からんと思うんだけど、あれをトイレにトイレの看板が貼ってあれば、ああここトイレだったっていうのが目で覚えている、頭じゃなくて。目で覚えていればそこはトイレというのは分かるというような意味から行くなら、いわゆる学校で教えるという問題よりも、やっぱり周りのいろんな環境の中からそういうものを自然に覚えていくことのほうが忘れられないんじゃないのかというところに着目をしてほしいという意味でお話をしていますんで、その辺りをちょっと間違えんように。何でもいいからその教育をすればいいだろうと、教育しているところは今、水谷さんいわくあるという話なんで、そこはそこでいいんだろうけれども、やっぱりみんなが自然に覚えられる、自然に学習できるというそういう環境をつくってくれるほうがいいんじゃないのかな、違うのかな。

○鈴村教育委員　も含めてね。

○鈴木町長　そういうことやで。

○水谷教育長職務代理者　環境づくりですね。

○鈴木町長　教科書じゃないよ。そういうのをやっぱりちょっとこれから頭に入れてやってくれるとありがたいということであります。

　あと御意見ございますか。

○社本生涯教育部長　いいですか。

○鈴木町長　どうぞ。

○社本生涯教育部長　先ほど水谷委員さん言われた北小のマーチングの件ですけれど、以前からお話をしているように、コロナということでいろんな活動ができなくなっていて、それを再開するときってすごくエネルギーが要るんです。もともとマーチングに関しては、指導ができる先生の人員配置とかに非常に苦労しながら何とか継続できてきたというのがあって、このコロナ禍で立ち上がるときにかなり悩まれたようなお話を聞きますけれど、やはりその伝統ということで何とか続けていけないかなというお話がありました。教育委員会の中でも、特に教育長が言われたのは、子どもと一緒に楽器を覚える先生がいてもいいじゃないかと。楽器を教えられる先生が教えるというのもいいんだけれど、先生も一緒に学ぶ。自分たちも見栄えをどうしても周りの大人って求めるんだけれども、見栄えを求めるんじゃなくて、子どもたちがいろんな楽器に触れることの経験の場を提供していくことを優先して、周りの大人が見栄えを求めないようなことを、みんなで町の中にお知らせをしていくんで、続くといいですねという話の中で続けていきたいという方向で今動いていて、今回、楽器の寄附をいただけるとお話があったときに、そのマーチングで使うものも、今は北小ちょっと児童数が増えているんで楽器が足りなくなってきているということがありましたので、その辺りの配慮をしながら楽器をそろえる方向で動いていますので、ぜひ皆様方が、町の中で出てきたときに見栄えとかを求めるんではなくて、そういう子どもの経験の場を応援したいんですということをぜひ言っていただけると、水谷委員さんが言われた続いていくということがよりいい方向へ行くのかなというふうに思いますので、ちょっとお願いになってしまって申し訳ないんですけれど、ぜひその形をお願いしたいということでございます。よろしくお願いします。

○鈴木町長　そろそろ意見も出尽くして、大体次の方向性も出たみたいでありますので、今日いただいた御意見を踏まえながら、今後の教育行政の中で生かしていくということで、この会を閉じさせていただきたいというふうに思っております。

じゃあ、皆さんから御意見をいただきましたので、これでこの場を閉めさせていただきたいというか、私は議長の場から下りさせていただきますので、よろしくお願いをいたします。大変貴重な時間をつくっていただきましたことを感謝申し上げます。ありがとうございました。

では、事務局お願いします。

５．その他

○岩田政策推進課長　ありがとうございました。

一応、議題としてはその次にその他がございますが、委員さんのほうから何か、全体通して、

それ以外でその他御意見あれば伺いますが、よろしいでしょうか。

（挙手する者なし）

○岩田政策推進課長　よろしいですね。

６．閉会

○岩田政策推進課長　それでは、これをもちまして令和４年度第１回大口町総合教育会議を閉じさせていただきます。委員の皆様には、長時間にわたりありがとうございました。

（午後　３時２２分）